

## ◆ 日本関係船舶における海賊等事案の被害事例（2005年）

## 【事例 1】

## 〈 乗組員が誘拐された事例 〉

パナマ籍作業台船を曳航中の日本籍タグボートがマラッカ海峡で銃器武装した14～15名の海賊に襲撃された。海賊は漁船に乗船して接近し、銃器を発砲した。タグボートに乗り込んで乗組員を甲板上に集め、その間に金品を奪った。その後、海賊は船長、機関長および三等機関士を連れ去ったが、誘拐された3名は6日後無事解放された。

## 【事例 2】

## 〈 錨泊中に襲撃されて縛られ倉庫に閉じこめられた事例 〉

錨泊中、船首部をワッチ中の甲板員が、長刀で武装し錨鎖を伝って侵入してきた海賊と遭遇した。トランシーバーで連絡をとり合っていた当直者が甲板員と連絡がとれないことを不審に思い、後部甲板ワッチ中の操機長に連絡し捜索したところ、甲板員は海賊にトランシーバーを取上げられたうえ、縛られて倉庫内に閉じ込められていた。甲板員は解放され怪我等はなかったが、船首部のライフラフトが盗まれていた。

## 【事例 3】

## 〈 日中に乗り込まれた事例 〉

ほとんどの被害は夜間に発生していますが、日中の港内で入港作業中の船に複数の海賊が乗り込んだ事案が発生しました。

パイロットが乗船し、乗組員が入港作業のため配置についていたところ、7名の海賊が船に乗り込んできた。海賊を発見した乗組員がアラームを鳴らしたところ、海賊は何も盗らずに逃げていった。

## 【事例 4】

## 〈 銃器を発砲された事例 〉

銃器、刀、鉄パイプ等で武装した覆面をかぶった数名の海賊が小型ボートで接近し、航行中の船舶に乗り込み船内に入ろうとした。施錠のため船内に侵入することができなかった海賊は銃器を発砲するとともに、鉄パイプで窓ガラスを叩いた。乗組員は汽笛及び緊急アラームを鳴らし、沿岸国に通報した。被害は、窓ガラスが一部欠けたのみであった。